「生徒指導の実践上の視点」を踏まえた授業づくりのためのチェックリスト

４：よくしている　３：時々している　２：あまりしていない　１：ほとんどしていない　　名前（　　）

視点	No.	手立て（項目）	自己評価①	自己評価②
自己存在感の感受	1	授業の中で生徒一人一人に役割を持たせることで、自己の存在を実感できるようにしている。	４・３・２・１	４・３・２・１
	2	生徒の思いや願いを基に活動に取り組めるよう、学習過程を工夫している。	４・３・２・１	４・３・２・１
	3	生徒のつぶやきに耳を傾け、その考えを価値付けたり、全体で共有したりしている。	４・３・２・１	４・３・２・１
	4	授業の中で生徒の姿を捉えて、具体的な姿を基に、承認や称賛、励ましを行っている。	４・３・２・１	４・３・２・１
	5	問題解決の課程を振り返り、学びの成果等を実感することができる場面を設定している。	４・３・２・１	４・３・２・１
	6	ＩＣＴを活用するなどして、個別最適な学びを実現できるようにしている。	４・３・２・１	４・３・２・１
	7	生徒が協力して学習できるように、ペア学習やグループ学習を取り入れている。	４・３・２・１	４・３・２・１
共感的な人間関係の育成	1	教員自らが相手の立場に立って考え、発言する姿勢を示している。	４・３・２・１	４・３・２・１
	2	生徒の話合いが活発になるよう、話合いの目的や視点を明確に示している。	４・３・２・１	４・３・２・１
	3	ペアやグループによる対話を通して生徒の学びが深まるよう、教員による適切な問い返しや考えをつなぐコーディネートをしている。	４・３・２・１	４・３・２・１
	4	「なぜそう思ったのか」を説明し合ったり、「どうすればできるようになるのか、よりよくなるのか」を全体で考えたりする場面を設定している。	４・３・２・１	４・３・２・１
	5	互いの良さを認め合ったり、励まし合ったりするために、相互評価の場面を設定している。	４・３・２・１	４・３・２・１
	6	生徒の発表に対して、うなずきや相づちで応え、共感的に受け入れている。	４・３・２・１	４・３・２・１
	7	発表に対しては、発表者の方を向かせたり、反応したりする雰囲気を作っている。	４・３・２・１	４・３・２・１
自己決定の場の提供	1	生徒自身が、単元（題材）や本時の終末で、何をどのようにできていればよいかの見通しがもてるよう、単元（題材）や本時のゴールを生徒と共有している。	４・３・２・１	４・３・２・１
	2	課題解決に向け、個人で調べたり、考えたりする時間を保障している。	４・３・２・１	４・３・２・１
	3	根拠を示しながら、自らの意見をまとめたり、表現したりする場面を設定している。	４・３・２・１	４・３・２・１
	4	対話や議論を通して、課題解決に向けて試行錯誤をすることができる場面を設定している。	４・３・２・１	４・３・２・１
	5	生徒が自己の学びを実感し、新たな問題（課題）を発見できるよう、振り返りの視点や方法を明確に示している。	４・３・２・１	４・３・２・１
安心・安全な風土の醸成	1	授業における約束事を生徒と共有している。	４・３・２・１	４・３・２・１
	2	授業開始時刻と同時に授業を始め、授業終了時刻と同時に授業を終えるようにしてる。	４・３・２・１	４・３・２・１
	3	教員自らが適切な言葉遣いや関わり方を心がけ、生徒の模範となっている。	４・３・２・１	４・３・２・１
	4	生徒が自分の考えや思いなどを安心して表現することができるよう、互いに傾聴し合う雰囲気作りをしている。	４・３・２・１	４・３・２・１
	5	生徒が安心して意見を述べることができるよう、ICTを活用するなどの多様な表現方法を設定している	４・３・２・１	４・３・２・１
	6	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習環境づくりをしている。	４・３・２・１	４・３・２・１
	7	生徒の他者を傷つけるような不適切な言動には毅然とした態度で指導している。	４・３・２・１	４・３・２・１

【　自己存在感の感受　】生徒一人ひとりが、自分は大切な存在であると感じられる。自分に自信を持ち、自己肯定感を育む。
【共感的な人間関係の育成】生徒同士が互いの気持ちを理解し、共感できる人間関係を築くこと。多様性を認め、他者を尊重する態度。
【　自己決定の場の提供　】生徒が自らの意思で考え、行動し、選択する機会を提供すること。自律性を養い、主体的に課題を解決する力を育む場を設ける。
【安心・安全な風土の醸成】生徒が安心して学校生活を送れる、温かく支援的な雰囲気や環境。学校全体で協力し、生徒が「居場所」だと感じられる環境。